

選手宣誓に込めた思い

北海道

伊達網代道場

小学6年 奥村 憲人

「宣誓、僕たち少年剣士一同は、目標とするこの大会に向けて、日々の稽古に一生懸命励んできました。

コロナの影響で、当たり前が当たり前ではなくなりました。そんな中、仲間の大切さ、稽古ができる喜び、そしてどんな時も応援してくれるお父さん、お母さん、指導してくれる先生方の存在を知ることができました。

三年分の赤胴大会です。この大会に出場できず、悔しい思いをした仲間、先輩方がたくさんいます。僕たちはその仲間や先輩たちの分まで頑張らなくてはなりません。

今日ここで試合ができることへの感謝と喜びを胸に、館内に響き渡る大きな気合いと充実した気力をもって正々堂々、最後まで諦めずに試合をすることを誓います」

僕の赤胴大会での選手宣誓です。先生から選手宣誓の話を聞いたときは、とても驚きました。そして失敗しないで上手にできるか、とても不安でいっぱいでした。

選手宣誓は、お父さんと考えました。新型コロナウイルスの影響で、大きく変わった日常、赤胴大会に出場したくてもできなかった、先輩の思いを込めました。そしてどんなことがあっても、絶対に諦めないというメッセージを込めました。

赤胴大会の一週間前に、僕の道場でもコロナが、はやりました。稽古はできなくなり、団体戦は、欠場を決めました。僕は個人戦だけで臨むことになりました。初めての赤胴大会で、みんなで一緒に優勝旗を返し、そしてまた持ち帰るぞ、と稽古を頑張ってきたのに、とても悔しかったです。その分「個人戦では出ることのできなかった仲間の分まで、絶対に頑張る」と心に決めました。

選手宣誓はとても緊張したけど、家で練習した成果を出せました。先生方からは「200点満点だ」「すごく上手だったぞ」とほめてもらえ、すごくうれしかったです。試合は2回戦で負けてしまったけれど、とても良い思い出になりました。きっと剣道をしていないと、こんなにも堂々と人の前で話しや発表をすることはできかったと思います。

僕は二年生の春から剣道を始めました。お父さんが剣道をやっていて、網代道場に見学に行ったら、カッコいいと思い、始めることにしました。

毎日のようにある稽古は厳しく、時々、つらく感じます。それでも頑張れるのは、今年の夏のように北海道予選を勝ち上がり、日本武道館に行けたこと。同じ目標に向かって頑張る仲間たちがいること。そして支えてくれるお父さんやお母さん、いつも真剣に剣道を教えてくれる、先生方を喜ばせたい、という気持ちがあるからです。

剣道を続けてきて、礼儀正しさ、大きな良い返事ができるようになったと思います。そし

て、選手宣誓のように多くの人の前でも、堂々と発表ができる勇気が付きました。

僕は中学校に行っても剣道を続けます。理由はもっともっと強くなりたいからです。網代道場で稽古ができるのは、あとたった三年です。これからもコロナという見えない敵と戦いながら、一日一日、仲間との時間を大切にしたいです。そして小学校で果たせなかった目標の一つ「全道優勝」を目指したいです。

試合で先生がよく言う言葉があります。「苦しいからって逃げていたら強くなれない」「負けて泣くな。勝って泣け」。

網代の仲間と勝ってうれし涙を流せるようにこれからも稽古に励みます。